

財務諸表に対する注記（法人全体用）

1. 継続事業の前提に関する注記

該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ・ 向陽苑一定額法及び定率法
- ・ りんどう苑、ひまわり苑一定額法
- ・ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

- ・ 退職給付引当金—毎月50万円計上（りんどう苑のみ）
- ・ 賞与引当金 —前年度実績に基づいて計上

3. 重要な会計方法の変更

該当なし

4. 法人で採用する退職給付制度

向陽苑…独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度

三井住友海上火災保険株式会社の積立普通傷害保険を利用

りんどう苑…併設医療機関と同様の独自の退職金制度を利用

ひまわり苑…独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度

5. 法人が作成する財務諸表等と拠点区分、サービス区分

当法人の作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

- (1) 法人全体の財務諸表（第1号の1様式、第2号の1様式、第3号の1様式）
- (2) 事業区分別内訳表（当法人では、社会福祉事業のみを行うため作成していない。）
- (3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表（第1号の3様式、第2号の3様式、第3号の

3 様式)

(4) 収益事業における拠点区分別内訳表 (第 1 号の 3 様式、第 2 号の 3 様式、第 3 号の 3 様式)

当法人では、収益事業を実施していないため作成していない。

(5) 各拠点区分におけるサービス区分の内容

ア 法人本部拠点 (社会福祉事業)

「本部」

イ 向陽苑拠点 (社会福祉事業)

「特別養護老人ホーム向陽苑」

「短期入所生活介護事業所向陽苑」

「デイサービスセンター向陽苑」

「居宅介護支援事業向陽苑」

「在宅介護支援センター向陽苑」

ウ りんどう苑拠点 (社会福祉事業)

「介護老人保健施設向陽りんどう苑」

「居宅介護支援事業向陽りんどう苑」

エ ひまわり苑拠点 (社会福祉事業)

「救護施設ひまわり苑」

6. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	95,113,800	0	0	95,113,800
建物	802,882,371	0	45,780,467	757,101,904
合計	897,996,171	0	45,780,467	852,215,704

7. 会計基準第 3 章第 4 (4) 及び (6) の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

国庫補助金等特別積立金 20,335,646 円を取り崩した。

8. 担保に供している資産

担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地 (基本財産)	51,235,800 円
建物 (基本財産)	375,710,010 円
計	426,945,810 円

担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	33,600,000円
計	33,600,000円

9. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

（貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。）

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
土地（基本財産）	95,113,800	0	95,113,800
建物（基本財産）	1,919,849,264	1,162,747,360	757,101,904
土地	5,662,923	0	5,662,923
建物	311,632,658	138,920,499	172,712,159
構築物	28,247,660	24,609,303	3,638,357
車輛運搬具	1,975,045	1,974,913	132
器具及び備品	138,252,725	130,884,322	7,368,403
積立金	40,742,000	0	40,742,000
ソフトウェア	447,600	404,039	43,561
権利金	7,726,344	0	7,726,344
差入保証金	50,000	0	50,000
長期前払費用	2,843,595	0	2,843,595
合計	2,552,543,614	1,459,540,436	1,093,003,178

10. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

（貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。）

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

（単位：円）

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	121,459,501	0	121,459,501
未収補助金	592,640	0	592,640
前払費用	1,886,526	0	1,886,526
合計	123,938,667	0	123,938,667

11. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

1 2. 関連当事者との取引の内容

該当なし

1 3. 重要な偶発債務

該当なし

1 4. 重要な後発事象

該当なし

1 5. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の
状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

財務諸表に対する注記（法人本部拠点区分用）

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 固定資産の減価償却の方法

・構築物一定率法（ただし、平成28年4月1日以降に取得した構築物は定額法）

・リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

・退職給付引当金－該当なし

・賞与引当金－該当なし

2. 重要な会計方法の変更

該当なし

3. 採用する退職給付制度

該当なし

4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

(1) 法人本部拠点財務諸表（第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式）

(2) 拠点区分事業活動明細書（会計基準別紙4）は省略している。

(3) 拠点区分資金収支明細書（会計基準別紙3）は省略している。

5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	43,878,000	0	0	43,878,000
合計	43,878,000	0	0	43,878,000

6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

7. 担保に供している資産

法人本部拠点では、該当なし

8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
土地（基本財産）	43,878,000	0	43,878,000
構築物	399,315	367,762	31,553
権利金	6,600,000	0	6,600,000
合計	50,877,315	367,762	50,509,553

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	2,729	0	2,729
前払費用	1,111,000	0	1,111,000
合計	1,113,729	0	1,113,729

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

財務諸表に対する注記（向陽苑拠点区分用）

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ・有形固定資産は定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物は定額法）
- ・ソフトウェアは定額法
- ・リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間定額法

(3) 引当金の計上基準

- ・退職給付引当金－該当なし
- ・賞与引当金－前年度実績に基づいて計上

2. 重要な会計方法の変更

該当なし

3. 採用する退職給付制度

平成18年3月31日以前に入社した職員は、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度、平成18年4月1日以降に入社した職員は、三井住友海上火災保険株式会社の積立普通傷害保険を利用

4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

(1) 向陽苑拠点財務諸表（第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式）

(2) 拠点区分事業活動明細書（会計基準別紙4）

- ア 特別養護老人ホーム向陽苑
- イ 短期入所生活介護事業所向陽苑
- ウ デイサービスセンター向陽苑
- エ 居宅介護支援事業向陽苑
- オ 在宅介護支援センター向陽苑

(3) 拠点区分資金収支明細書 (会計基準別紙3)

- ア 特別養護老人ホーム向陽苑
- イ 短期入所生活介護事業所向陽苑
- ウ デイサービスセンター向陽苑
- エ 居宅介護支援事業向陽苑
- オ 在宅介護支援センター向陽苑

5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	226,061,121	0	12,996,738	213,064,383
合計	226,061,121	0	12,996,738	213,064,383

6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

国庫補助金等特別積立金 7,635,602 円を取り崩した。

7. 担保に供している資産

該当なし

8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物 (基本財産)	784,838,264	571,773,881	213,064,383
土地	5,662,923	0	5,662,923
建物	160,163,798	82,445,515	77,718,283
構築物	3,400,478	2,579,895	820,583
車輛運搬具	1,975,045	1,974,913	132
器具及び備品	46,844,369	42,542,879	4,301,490
積立金	6,000,000	0	6,000,000
ソフトウェア	447,600	404,039	43,561
権利金	824,952	0	824,952

長期前払費用	1,797,275	0	1,797,275
合計	1,011,954,704	701,721,122	310,233,582

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	46,128,039	0	46,128,039
未収補助金	592,640	0	592,640
前払費用	490,166	0	490,166
合計	47,210,845	0	47,210,845

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

財務諸表に対する注記（りんどう苑拠点区分用）

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ・建物、構築物、器具及び備品は定額法
- ・リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

該当なし

(3) 引当金の計上基準

- ・退職給付引当金—毎月50万円計上
- ・賞与引当金 —前年度実績に基づいて計上

2. 重要な会計方法の変更

該当なし

3. 採用する退職給付制度

併設医療機関の退職給付制度を利用

4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

(1) りんどう苑拠点財務諸表（第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式）

(2) 拠点区分事業活動明細書（会計基準別紙4）

- ア 介護老人保健施設向陽りんどう苑
- イ 居宅介護支援事業向陽りんどう苑

(3) 拠点区分資金収支明細書（会計基準別紙3）

- ア 介護老人保健施設向陽りんどう苑
- イ 居宅介護支援事業向陽りんどう苑

5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	51,235,800	0	0	51,235,800
建物	394,509,570	0	18,799,560	375,710,010
合計	445,745,370	0	18,799,560	426,945,810

6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

国庫補助金等特別積立金 4,185,926 円を取り崩した。

7. 担保に供している資産

担保に供されている資産は以下のとおりである。

土地（基本財産）	51,235,800 円
建物（基本財産）	375,710,010 円
計	426,945,810 円

担保している債務の種類および金額は以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	33,600,000 円
計	33,600,000 円

8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高 (貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
土地（基本財産）	51,235,800	0	51,235,800
建物（基本財産）	803,400,000	427,689,990	375,710,010
建物	151,468,860	56,474,984	94,993,876
構築物	17,097,867	15,998,484	1,099,383
器具及び備品	80,543,574	78,841,519	1,702,055
権利金	224,952	0	224,952
差入保証金	50,000	0	50,000
長期前払費用	559,260	0	559,260
合計	1,104,580,313	579,004,977	525,575,336

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	73,312,405	0	73,312,405
前払費用	152,525	0	152,525
合計	73,464,930	0	73,464,930

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の
状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

財務諸表に対する注記（ひまわり苑拠点区分用）

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ・建物、構築物、器具及び備品は定額法
- ・リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

該当なし

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

該当なし

(3) 引当金の計上基準

- ・退職給付引当金－該当なし
- ・賞与引当金　－前年度実績に基づいて計上

2. 重要な会計方法の変更

該当なし

3. 採用する退職給付制度

独立行政法人福祉医療機構の社会福祉施設職員等退職手当共済制度

4. 拠点が作成する財務諸表等とサービス区分

当拠点区分において作成する財務諸表は以下のとおりになっている。

- (1) ひまわり苑拠点財務諸表（第1号の4様式、第2号の4様式、第3号の4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（会計基準別紙4）は省略している。
- (3) 拠点区分資金収支明細書（会計基準別紙3）は省略している。

5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	182,311,680	0	13,984,169	168,327,511
合計	182,311,680	0	13,984,169	168,327,511

6. 会計基準第3章第4(4)及び(6)の規定による基本金又は国庫補助金等特別積立金の取崩し

国庫補助金等特別積立金 8,514,118 円を取り崩した。

7. 担保に供している資産

該当なし

8. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物（基本財産）	331,611,000	163,283,489	168,327,511
構築物	7,350,000	5,663,162	1,686,838
器具及び備品	10,864,782	9,499,924	1,364,858
積立金	34,742,000	0	34,742,000
権利金	76,440	0	76,440
長期前払費用	487,060	0	487,060
合計	385,131,282	178,446,575	206,684,707

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	2,016,328	0	2,016,328
前払費用	132,835	0	132,835
合計	2,149,163	0	2,149,163

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし